

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2011年2月2日

1. 概要

実践団体名	西大和6自治会連絡会(桜ヶ丘2丁目自治会)		
連絡先	辻 誠一 0745-32-8706		
プランタイトル	災害時要援護者避難訓練 & 子どもサバイバルキャンプ		
プランの対象者	10. 地域住民 2. 3. 小学生(低・高学年)	対象とする 災害種別	地震

【プランの目的・ここがポイント！】

- ・ 地震災害時、地域において、自治会が自発的におこなう災害時要援護者対策で、手上げ・同意方式で要援護者を募るため、自治会長とブロック委員が自治会員全戸を訪問し、地域の「助け合おう・お互いさま」という共助の意識を高める。
- ・ 子どもも大人と一緒に訓練し、遊びや防災ゲームで習得し、将来の担い手を育成する。

【プランの概要】

- ・ 災害時要援護者の安否確認台帳を作成し、手上げ・同意方式で希望者を確認する。
- ・ 災害時支援者(助ける人)を募集する。
- ・ 訓練では、健常者に擬装器具等を装備して要援護者とし、安否確認・救助・一時避難所へ救出する。
- ・ 避難所では、医師や看護師がケアする。また室内に簡易トイレを組み立てる。
- ・ 子ども(小学生)も大人と同じメニューをこなす。すなわち本部情報班から救出まで。
- ・ 子どもサバイバルキャンプは、地震災害時、一時避難所へ避難し、電気・ガス・水道・電話なしと仮定して、テントで1夜明かす。また楽しく防災ゲームで知識を習得する。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・ 災害時要援護者および災害時支援者(助ける人)の確認をする。
- ・ 災害時において、「地域の助け合い・お互いさま」という共助の意識のもとに、要援護者救助と避難訓練を行う。訓練を実施することで、問題点が把握でき、今後につながる。
- ・ 子ども(小学生)も、遊びや防災ゲームを通じ知識を習得し、大人と一緒に訓練に参加する体験をすることにより、将来の地域の担い手として期待される。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2010年 6月	13日自治会内の開業医と意見交換	27日準備委員会 29日小学校校長と打合せ	6月以前 3月26日町長説明会 4月10日準備委員会 4月16日泉大津市へ・懇談指導受け 5月6日準備委員会 5月28日準備委員会
2010年 7月		11日準備委員会	
2010年 8月		15日実行委員会	21日第1回要援護者避難訓練実施 21、22日子どもサバイバルキャンプ実施
2010年 9月		17日反省会	17日田村先生、木村先生指導受け 25日、26日CP中間報告会(東京) 戸別訪問による要援護者の確認
2010年 10月			戸別訪問による要援護者の確認
2010年 11月	15日第2回避難訓練打合せ	30日第2回避難訓練打合せ	戸別訪問による要援護者の確認 災害時支援者募集
2010年 12月		資機材の調達 15日HUG打合せ 18日避難訓練打合せ	災害時要援護者登録 災害時支援者登録
2011年 1月		5日避難訓練打合せ	9日第2回避難訓練の説明会 16日第2回災害時要援護者避難訓練実施

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	災害時要援護者避難訓練
実施月日（曜日）	平成 22 年 8 月 21 日（土） 第 1 回避難訓練 平成 23 年 1 月 9 日（日） 第 2 回避難訓練 説明会 平成 23 年 1 月 16 日（日） 第 2 回避難訓練
実施場所	奈良県北葛城郡上牧町桜ヶ丘 2 丁目地内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：実行委員長 氏 名：椎木 固 所属・役職等：桜ヶ丘 2 丁目自治会長
所要時間または「コマ数×単位時間」	第 1 回避難訓練 3 時間 第 2 回避難訓練 説明会 2 時間半 第 2 回避難訓練 3 時間
プログラムのカテゴリ、形式	16. 避難・防災訓練
活動目的	4. 災害を想定した訓練
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災意識の高揚 ・実施後、問題点の抽出と把握
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先進事例研究、関連部署との調整 ・ 災害時要援護者登録台帳の作成 ・ 避難訓練の計画・実施 ・ 災害時要援護者の登録説明を回覧後、自治会員全戸個別訪問 ・ 災害時支援者（助ける人）の募集・登録 ・ 支援者を中心とした第 2 回避難訓練の計画・実施 ・ 反省と総括の実施
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町長、教育委員会、上牧第 2 小学校、町役場総務課、社会福祉協議会、民生・児童委員、消防署、消防団、シルバークラブ、小地域ネットワーク、子ども会、桜ヶ丘 2 丁目自治会 ・ 無線機、擬装装具、リヤカー、車椅子、担架、三角布、HUG
参加人数	約 120 人/回
経費の総額・内訳概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総額約 9 3 万円 ・ 無線機 5 0 万円、発電機 1 0 万円、車椅子 3 万円、雑費 3 0 万円

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

<p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町行政や関係諸機関との協働の意識高揚 ・ 地域の「助け合い、お互いさま」の意識高揚 ・ 地域の要援護者と支援者(助ける人)の確認 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会は、初動として、要援護者を一時避難所へ救出班後応手当は可能であるが、それ以後のケアができない。その後のことも含め、町との連携をどのようにするのか、自治会と行政の役割分担をも含めて、体制を確立する必要がある。 ・ 細かい点では、無線機の利用法について基地局と子機の間隔を工夫する必要がある。また、本部情報班は非常に重要なポジションであり、増員の必要があった。紙の情報を本部や救助班へ流すには複数が必要で、コピー機がない状態ならば、記録には複写式の紙が望ましいなど、本部情報班をもっと機能的にする必要がある。
<p>成果物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時要援護者安否確認台帳 および災害時支援者登録台帳 ・ 災害時要援護者避難訓練要領

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム②】

タイトル	子どもサバイバルキャンプ
実施月日（曜日）	平成22年8月21日（土）、22日（日）
実施場所	奈良県北葛城郡上牧町桜ヶ丘2丁目 公民館とグラウンド
担当者または講師	担当者・講師等の区分：実行委員長 氏 名：椎木 固 所属・役職等：桜ヶ丘2丁目自治会長
所要時間または「コマ数×単位時間」	24時間 土曜日の午後1:00から翌日日曜日の12:00まで
プログラムのカテゴリ、形式	16. 避難防災訓練
活動目的	楽しく、遊びを取り入れながら、防災資機材を使用して防災訓練を体験する。大人も協働することにより、ご近所様を知る。
達成目標	子ども（小学生）に被災時における生き方を体験してもらう。 大人も炊き出し等訓練をする。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> 概略計画を練り、マンネリ化しないよう、新規アイデアを出す。（今回はペットボトルによるランタンの地上絵を実施） 関係諸機関へ協力依頼を出し、また許可を受ける。 子どもと保護者へ案内を小学校、子ども会、自治会からも出す。 子どもの参加者を確定し、実施プログラムを作る。 資機材の確認をし、テントの提供者も確認する。 実行し、事後、アンケート調査を行い、次回の参考とする。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> 人材 教育長、小学校、消防署、消防団、社会福祉協議会、民生・児童委員、子ども会、自治会 道具、材料等 ジャッキ、ボール、チェーンソー、発電機、投光器、1輪車、リヤカー、担架、水消火器、仮設簡易トイレ、水槽、テント、寝袋、毛布、机、椅子、ブルーシート、水槽タンク（飲料水）、大鍋、釜、ナイフ、鋸、サンドペーパー、懐中電灯、ラジオ、ペットボトル、ろうそく、プロジェクター、パソコン、カルタ、絵本、他遊戯道具、食材・おやつ、麦茶、氷、蚊取り線香
参加人数	大人50人、子ども70人
経費の総額・内訳概要	総額：約12万円

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	内訳：食材7万円、飲み物2万円、その他3万円
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども(小学生)達が、遊びと訓練を、一緒に共同して実施することにより、被災時における避難の基礎知識を会得する。 将来の地域の担い手を育成する。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者が増え、拡大していけば、地域の保護者や大人の参加も増やす必要がある。
成果物	子どもサバイバルキャンプ手引書

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>苦勞した点</p> <p>災害時要援護者避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時要援護者対策は、プライバシーの問題があり、大変困難な課題で、町行政や関係諸機関の協力が得られなければ遂行が難しい。 ・ 要援護者台帳づくりには、国や市町村の先進事例を勉強して、自治会としてどこまでやれるか、自治会の役割も含め、議論した。 ・ 結果、災害時要援護者対策に関して、安否確認は関係諸機関でそれぞれやっているのが、それぞれ漏れがあり、縦割りであることが分かり、自治会としてどのように、災害時要援護者を確認して、避難訓練をすればよいのか、自治会の役割について議論した。 ・ 災害時要援護者の定義をどのようにするのか <p>子どもサバイバルキャンプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもサバイバルキャンプのマンネリ化対策について
	<p>工夫した点</p> <p>災害時要援護者避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先ず町長に説明し、町長に関係諸機関を集め、説明会を開いてもらった。 ・ 台帳づくりは総務省の先進事例も参考としたが、市町村の先進事例として泉大津市の松之浜自治会のものが、規模も同じようであり、参考にさせていただくべく、泉大津市役所のお世話でヒアリングさせていただいた。 ・ 関係諸機関（消防署、民生・児童委員、シルバークラブ、社会福祉協議会等）の要援護者の確認方法・状況を参考に聞いた。 ・ 自治会として役割は、災害発生時、初期救出活動ができるは自治会と位置付けし、発生後3日～5日間の救出活動と避難所でのケアとした。 ・ 災害時要援護者の定義は、広く、1人では1時避難所へ行けない人とした。 <p>子どもサバイバルキャンプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しいイベントを探し、今回は県内橿原市新中町自主防災会のペットボトルによるランタンを採り入れことにし、お願いして、指導を受けに行った。これまでのキャンプファイヤーにとって代わるものになった。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

準備活動で 苦勞した点 工夫した点

苦勞した点

災害時要援護者避難訓練

- ・ 災害時要援護者安否確認台帳の様式について
- ・ 災害時要援護者の登録方法について

子どもサバイバルキャンプ

- ・ 新規の試みであるペットボトルランタンのイベントには、沢山（800個ほど）のペットボトルが必要であるため、その収集方法について
- ・ 子どもサバイバルキャンプの参加者が多く（70名、昨年40名）、また部屋の制限もあり、ゲーム等どのようにすればよいかについて

工夫した点

災害時要援護者避難訓練

- ・ 総務省や他の市町村の先進事例を勉強し、泉大津市には実行委員が訪ねて、お話しを伺った結果、安否確認は手上げ・同意方式とし、その台帳は、記入者が同意後、記入し易いよう簡易化した。
- ・ 台帳管理は個人情報保護の面から、全戸分を自治会長のみ、ブロック分(10数軒)はブロック委員とした。
- ・ 要援護者の登録にあたり、自治会の定例会で合議後、その趣旨書を自治会員全戸に配布した。その後で自治会長とブロック委員が戸別訪問して、疑問点に答え、不安材料を解消した。
- ・ 訪問には、ご家庭におられる夕方の時間帯を利用し、効率化を図った。

子どもサバイバルキャンプ

- ・ 子ども会、自治会役員に、ご家庭から出るペットボトルを提供していただいた。
- ・ 室内ゲームは、3班に分け、同時に異なるゲームを3か所でやり、ローテーションを回すとともに、ゲーム内容も考慮した。

防 災 教 育 チャレンジプラン 最 終 報 告 書

実践に 当たって 苦労した点 工夫した点

苦労した点

災害時要援護者避難訓練

- ・ 子どもの熱中症対策
- ・ 簡易担架(物干し竿に毛布を巻きつけたもの)に乗った大人が重たかったのか、搬送中に、物干し竿が折れた。幸い事故なし、急遽車椅子に変更

子どもサバイバルキャンプ

- ・ 夏場であるので食中毒や熱中症対策
- ・ 夜、子どもたちはなかなか寝ない

工夫した点

災害時要援護者避難訓練

- ・ 2回目の避難訓練はブラインド方式を採り、要援護者がどこのいるのか事前に伝えず、また道路上に電柱が倒れて障害となっている個所も設定した。
- ・ 子ども達の熱中症対策として、水分の補給と頭より水シャワーをかけるため、水噴霧機を使用した。
- ・ HUG(避難所運営ゲーム)に、一時避難所である上牧第2小学校の体育館の平面図を使用し、リアル感を抱かせた。

子どもサバイバルキャンプ

- ・ 熱中症対策として飲料水・麦茶・氷など多量に投入した。
- ・ 着の身着のまま避難ということで、お箸とスプーンは切りだした竹で粗方加工したものに、子ども達にサンドペーパーがけをさせて仕上げた。
- ・ プログラムもグラウンドと室内ゲームを交互にしてクーリングダウンをした。
- ・ 食中毒には加熱した料理のみ、手洗いの励行をした。
- ・ 蚊に刺されないよう、多量の蚊取り線香を用意した。
- ・ 夜のトイレは公民館を使用させ、トイレ隣の和室には複数の女性役員に仮眠をとってもらった。
- ・ あまり暗くないよう、最小の明かりは確保した。
- ・ 約800個のペットボトルランタンで、5m角のお星さまとクジラが笑って潮を吹いている絵を地上絵として描き出した。
- ・ 一般の方からも見学があり好評であった。そこで、ネーミングを子ども達に募集し、桜ヶ丘2丁目のペットボトルランタンということで、小学校4年生の提案した「サクランタン」に決定した。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上牧町教育委員会 ・ 上牧町立第2小学校 	教育委員会の後援 教育長の参加 学校長・教頭の参加
保護者・ PTAの組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども会 	準備・実行委員として企画 から実行までの実務
地域組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防団 ・ 民生・児童委員 ・ シルバークラブ ・ 小地域ネットワーク 	準備・実行委員として企画 から実行まで
国・地方公共団体・ 公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良県安全・安心まちづくり推進課 ・ 上牧町役場 ・ 上牧町社会福祉協議会 ・ 消防署 	指導・アドバイス受け 町長主催の説明会 町長の出席・挨拶 総務課職員の実務参加 準備・実行委員とし実務 アドバイス受け
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町長、教育委員会、他役場幹部職員、社会福祉協議会、民生・児童委員ら防災に関しての関係諸機関の協働意識が高揚した。 ・ 町内の関係諸機関の取り組みが把握でき、今後の防災・減災のための協働・ネットワークづくりの基礎ができた。 ・ 「助け合おう・お互いさま」という自覚が一層強まった。 ・ 子どもサバイバルキャンプは6年継続したことにより、将来地域の担い手が着実に育っている。第1回目に参加してくれた子ども達が、現在大学の1回生や高校生になろうとしている。 ・ 2回目の避難訓練では、役場を通じて自治連合会に案内状を出したこともあり、町内の7つの自治会長が見学に参加してくれた。8名の役員を送り込んだ自治会もあり、関心の高さがうかがえた。町内に浸透し始めると期待できる。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時要援護者避難訓練は、安否確認台帳の様式作成に、多くの時間を費やしたが、半年という短期間で、なんとか実行できた。 ・ 避難訓練を実行してみて問題点の抽出と把握ができたことは、当初の狙いどおりである。 ・ 災害時要援護者安否確認の調査のため、各戸を戸別訪問している時に、要援護者（助けられる人）の調査もさることながら、支援者（助ける人）も必要ですねという意見が多々あり、急遽支援者の募集を行った。結果、約400戸・1200人の住民のうち、約230名を登録した。 （要援護者は約70名） ・ 支援者の方は、当初予全く予想しておらず、自治会長とブロック委員が、懇切丁寧に説明して回った賜物で、「向こう三軒両隣、助け合おう、お互いさま」の隣保意識が一層高まったのではないかと考える。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時要援護者安否確認台帳と災害時支援者の登録名簿を毎年確認し、更新する。 ・ 今回確認された問題点を整理して、より良い、より現実的な避難訓練を継続しておこなう。 ・ 子どもサバイバルキャンプも、新鮮な気持ちを入れて、継続していく。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ①

災害時要援護者避難訓練

- 自治会が行う避難訓練は限度があり、一時避難所での短期の生活までである。その次は中長期のケアが必要で、町全体の具体的な防災計画に基づく、町指導型の避難訓練が望まれる。関係諸機関と其々役割分担を決め、合同の訓練を実施するのが次のステップであろう。

本部情報班



一時避難所でのケア



HUG（避難所運営ゲーム）



防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ②

子どもサバイバルキャンプ

- ・ 大人は場面を与えて、子ども達が自主的に動くものを取り入れたい。
高学年は低学年から参加しているので、要領は知っているし、場面設定にも十分追従できるものと思われる。サバイバルキャンプ卒業生（中学生）の指導的役割も考えてみたい。

担架実技



サクラランタンのジャンボリー



水消火器による消火訓練

